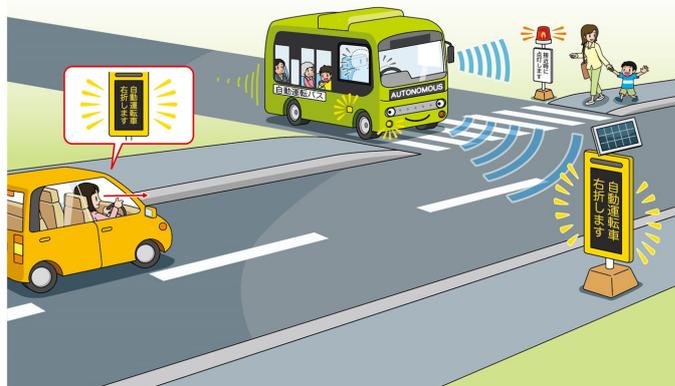


報道関係者 各位

2020年2月21日
株式会社アークノハラ

川口市における自動運転バス実証実験 「自動運転バスの接近を知らせる電光掲示板」を設置 ～都市部に自動運転車両を導入するためのインフラ整備～

株式会社アークノハラ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：岡本 力、以下：アークノハラ）は、埼玉県川口市（市長：奥ノ木 信夫）が2020年2月25日から実施する「川口市における自動運転バスの実証実験」に協力し、自動運転バスの運行ルートに、自動運転バスの指示により表示を変える「自動運転バスの接近を知らせる電光掲示板」（以下、電光掲示板）を設置します。



■左：「自動運転バスの接近を知らせる電光掲示板」、右：電光掲示板と自動運転バスの連携イメージ

坂道での安心・安全に道路側からの注意喚起を

今回の実証実験実施ルートには坂道があります。

坂道では、一般車両が登りで加速、下りでスピードがのったまま走行する傾向があります。一方、自動運転車両は一定のスピードで走行します。

私たちは、本実証実験において、自動運転バスが走行していることを周辺へ知らせるために「電光掲示板」を設置します。

そして、自動運転車両を社会が受容できるよう、多数の来街者や自動車交通がある都市部における課題、自動運転車両と従来の一般車両が混在することにより予想される課題などについて、街の安心・安全を支える安全補完施設のありかたに関する知見を得たいと考えています。

実証実験の概要

1.概要

名称	川口市における自動運転バスの実証実験
実施予定期間	2020年2月25日(火)～2020年2月28日(金)
実施場所	鉄道の駅から離れた場所に位置する複合施設「SKIPシティ」と鳩ヶ谷駅間
実施目的	自動運転バスの実用化により、移動がより便利になるまちづくりを目指す。
アークノハラ 実験概要	<ol style="list-style-type: none"> ①「自動運転バスの接近をお知らせする電光掲示板」 ②「自動運転バスの接近をお知らせする回転灯」 ③「自動運転バス実証実験 ピクト」 ④「自動運転バス 乗り場案内」 <p>の安全補完施設を設置し、周辺環境への周知と注意を喚起</p>

2.混在交通における安全補完施設の紹介

①「自動運転バスの接近をお知らせする電光掲示板」

「自動運転バスの接近を知らせる電光掲示板」は、自動運転車両と電光掲示板が通信を行うことにより、電光掲示板の表示内容を切り替えることができる装置です。本実証実験では、坂道区間に1基を設置します。自動運転バスからの指示により「電光掲示板」には自動運転バスが通行中であることを表し、周辺を走行中の一般車両に自動運転バスの存在を知らせ、安心・安全のための注意を喚起します。



②「自動運転バスの接近をお知らせする回転灯」

「自動運転バスの接近をお知らせする回転灯」は、自動運転バスからの指示により回転灯が通信を行うことにより、回転灯を点灯することができる装置です。周囲走行中の一般車両と歩行者に対し注意喚起します。本実証実験では、「SKIPシティ」に1基を設置します。



③「自動運転バス実証実験 ピクト」

自動運転バス実証実験中であることを、周囲へお知らせするピクトです。このピクトにより、周辺住民、交通車両の理解と協力を醸成し、安全かつ円滑な実証実験の実施をサポートします。本実証実験では、通行路に4基を設置します。



④「自動運転乗り場案内」

自動運転バスの乗り場を案内するサインです。本実証実験では、「SKIPシティ」に1基を設置します(注)。(注)本実証実験において走行する自動運転バスには、一般の方は乗車できません。



川口市立科学館 | 特設コーナー「自動運転のしくみ」にパネル展示

私たちは、川口市立科学館で開催予定の以下の特設コーナーに、自動運転社会の安全・安心のためのパネルを展示します。(図1参照)

<「自動運転のしくみ」開催概要>

自動運転ってなに?自動運転の技術の紹介やPM(パーソナルモビリティ)走行の体験から未来型都市交通について考えてみよう。

【開催期間】2月27日(木)~3月22日(日)

【開催場所】埼玉県川口市立科学館

【WEB】<http://www.kawaguchi.science.museum/floor/6semina.html#20jidou03>

【パネル内容】詳しくは別紙参照



【図1】パネルイメージ

アークノハラ×自動運転 | 社会受容性を高める、道路側の安全対策への取組み

道路環境の安全は、道路や橋・トンネルなどの構造物としての安全はもちろん、歩行者を含む道路利用者の注意により守られています。道路標識や視線誘導標、電光掲示板などの交通安全施設は、道路利用者への案内や注意喚起をサポートする重要なアイテムの一つであり、横断歩道や信号、急カーブや下り坂の存在や雨・風・凍結などに対する注意を促すことで道路環境の安心・安全をサポートします。

<自動運転時代への過渡期における混在交通>

一般道路における路車間協調を行う安全補完施設の意義：道路側の安全対策

社会が自動運転車両を受容するためにも道路の安全は守られなくてはなりません。

私たちが取り組む「路車間協調を行う安全補完施設」は、自動運転車両の走行場所やその動作予告を周囲の人に伝え、道路環境の安心・安全をサポートします。

▶路車間協調を行う安全補完施設の数々_左から順に「自動運転車両の接近をお知らせする電光掲示板」、「自動運転車両の接近をお知らせする回転灯」、「自動運転車両のピクト」、「自動運転車両乗り場案内」



株式会社アークノハラについて

株式会社アークノハラは、「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標、歩行者用観光案内標識などのサイン、ガードレール・遮音壁などの安全施設製品について、設計～製造～施工の一環したネットワークを構築してまいりました。これからも交通事業の発展及び環境整備の拡充と、安心安全な街づくりに貢献してまいります。

また群馬大学との共同研究等で得られた知見を公共インフラとして行政関係者、自動運転事業関係者とともに活用してまいります。

【会社概要】

株式会社アークノハラ

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：1987(昭和 62)年 8 月 3 日

資本金：5,000 万円

代表取締役社長：岡本 力

▼会社ホームページ

<https://arc-nohara.co.jp/>

野原ホールディングス株式会社について

野原グループは、1947 年の創設以降、建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。

近年は、「Innovation」・「Digitalization」・「Globalization」をキーワードにユニークな事業の創出を目標に掲げております。プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や建設情報のデジタル化を目指す新会社「BIMobject Japan 株式会社」、グッドデザイン賞受賞商品のみを販売する国内初のデザインショップ「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、特別な思いと時間をシェアする場所「レンタルキッチンスペース Patia」、新しい表現を模索する人たちのための、自由な発想に寄り添う壁紙ブランド「Wh0」など、新規事業を展開しています。

【会社概要】

野原ホールディングス株式会社

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：2017 年 1 月 5 日

資本金：4 億 8,000 万円

代表取締役社長：野原 弘輔

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>



【本技術協力に関するお問い合わせ】

株式会社アークノハラ

営業戦略部企画開発室(担当/安田、荒木) 電話：03-3357-2442

【本リリースに関する問い合わせ先】

野原ホールディングス株式会社

社長室(担当/齋藤、青木) 電話：03-3357-2231